

暮らしと経営に役立つ専門家ネットワークが始動・・・

株式会社ホロニクス総研は、私たちの日常生活の中から発生する様々な問題や中小企業の経営が直面する緊急を要する経営危機などに対して、ご相談を受けている専門家によるネットワーク会社だ。

家庭生活における問題を支える専門家には、心をフォローする心理カウンセラーやライフカウンセラーが、生活設計をお手伝いするライフ・プランナーやファイナンシャル・プランナーが、病気などには医師、看護師、療法師、福祉士、ホームヘルパー、介護士が、そして、豊かな生活を過ごすために健康管理士、健康生きがいづくりアドバイザー、地域ボランティア、音楽家、アロマセラピスト、カラーコーディネーターなどがある。

中小企業を支える専門家は、弁護士、公認会計士、税理士、司法書士、行政書士、弁理士、社会保険労務士、中小企業診断士、経営コンサルタント、不動産鑑定士、建築設計士、宅地建物取引主任者、コンピュータ技術者など多くの専門家がいる。

最近のご相談で多いのは、相続や離婚の悩みごと、不動産の借地権処分のトラブルやアパートで空室が多くて困っているようなオーナーさんからのご相談。債務超過で悩み続けている経営者や連帯保証人となって自宅を売却しなければならない・・・などのご相談は、リスク・カウンセラーがじっくりと問題を整理して、納得いくような解決策を提案したりしている。

ホロニクス総研は、お客様を心から安心できるように解決する。

R.F.C

リスク・カウンセラー & ファイナンシャル・カウンセラー

Information & Report

2004.02.15 Vol.2004-001

【ちょっと感時記】

節分の翌日は立春で、春だというが吹く風はまだまだ頼に冷たい。でも、街を歩いてみると自然界では確実に春が来たことを感じとってか、活発な生命活動が芽吹きとなり鈍感な人間たちに見せてくれている感じがつく。舗道の脇に植えられた沈丁花は、すでに小豆粒ほどの紅い蕾がはじけそうに膨らんでいる。去年の今頃もそうだったように・・・「年々歳々花相似たり」と、この言葉を思い出す。 細野

企業再生は・・・早期発見！早期対策！

社長の発信する 危機信号を見つける

企業再生は本当にできるか？：と問う問いに、対して、できず！とお返事があつた。しかし、その後、続々言葉として、「ただし、危機状態を発見してから如何に早く対応できるかが決め手です！」とお答えが返ってくる。

大切なのは 社長のメンタルケア

社長の心身の苦しみ 会計人が気づく財務諸表上の危機信号 この3点に周囲の人の誰かが気づき、早期に対応さえしてさえいけば、何とか経営危機を回避できたのでは！：と言つことである。

つまり、経営者が発信している危機信号(経営内容や社長の精神的なもの)をいかに早く察知して決断し、速やかに対応するかにかかっている。

再生事例や破産事例は今までに取組んできた70事例の中で、代表的なものでは、再発事例については、危機発生から僅か7日間、裁判所の破産命令を受け、破産事例は1年以上解決を先送りしたことで、明暗を分けてしまつてしまつた。

信する経営者自身が家族の危機信号を察知する。それは、あると云う。それがあつて、特に気がなつて、立ち会つて、その事例の立場で多くのリスクを多く承らなければならない。この事例に立ち会つて、特に気がなつて、立ち会つて、その事例の立場で多くのリスクを多く承らなければならない。

企業再生に着手する際、リスクカウンセラーと弁護士とは、それぞれ重要な役割を担いながら再生へ向けて取り組んでいく。周囲の方が社長の危機信号をみつけられ、ご相談にきて下されば、他の業務に優先して真つ先にアクションを起こすことが大切だと考え、取り組んでいく。それと、救急救命センターのようには、何よりも時間との戦いとも言えるからなのだ。

言うなれば法の楯として債権者から守ってあげる役割を担っているわけだ。

こうして、リスクカウンセラーと弁護士は企業再生プロジェクトの両輪となり、時には社長の意欲を引き出し、三位一体となつて迫り来る時間と戦い危機回避に向けて取り組んでいるのだ。皆さんの周囲にいる債務超過で苦悩している人々に、対し、迫り来る危機から逃れようとして、問題解決を先送りして一時的に楽になつてホッとせず、決断することの勇気をもつて、声を掛けてあげていただきたいと思います。

【ホロニック】

(英: Holonic) 全体(ホロス)と個(オン)の合成語。

すなわち組織と個人が有機的に結びつき全体も個人も生かすような形態を言う。生物は個々の組織が自主的に活動すると同時に独自の機能を発揮する一方でそうした個が調和して全体を構成する (小学館「カタカナ語の事典」より)



失敗事例に学ぶ！『高齢者による借入の失敗』

高齢者の借入の悲劇

当時、時価2億円の自宅を持つF氏(72歳)は、家族からは頑固さを呆れられながらも結構自分なりのやり方で順調に事業を伸展させてきた。F氏は最後の仕事として、相続対策のため自宅を担保に、事業の拡大資金と法人所有の不動産の購入資金として1億5千万円の借り入れを申し込んだ。

しかし、銀行の見会では高齢であるため、借り入れ申し込の際、自宅は一番の相続財産としてとらえられていた為、相続人全員が連帯保証人となるよう要求され、止むなく相続人全員が書面に署名した。その頃は自宅の担保価値も十分に余裕があったので高齢の妻は勿論、2人の息子達にも簡単に説明しただけで説明を受けた家族もさほど気に止めずにいた。

ところが、バブルの崩壊と同時に事業の業績はみるみる間に悪化し、併せて不動産評価の急落と賃貸不動産に対する持ち出し資金の負担増加で資金繰りは逼迫する一方となった。不動産の担保価値も下落したため、事業を立て直す資金の借り入れも出来ず、いつしか借入金返済に追われる毎日となっていた。そうなる仕事どころではない。銀行担当者が頻りに来ては返済計画の提出を求められる。苦しさのあまり、株券、絵画、骨董品などをそとと売り払い、万が一に備え妻へと思って加入していた生命保険も解約したが、その全てが一時的な資金手当てにしかならなかつた。

様子がおかしいことを察知した息子から詰め寄られ、やつとの思いで資金繰りの窮状をやつと話すことになる。話しを聞いた息子は、カードローンで300万円、サラ金で250万円、ゴルフ会員権を担保に300万円とあらゆる手段で借り入れするが、もとより銀行の借り入れ返済に当てるにはこれも一時的なもの。利息を埋めるための借り入れに更に利息が付いてまさに地獄絵を描くかのような日々となり、とうとう精魂も尽き果て行き詰まった。高齢の妻も、サラリーマンの2人の息子も連帯保証人としての債務を負わなければならない、私的整理が破産宣告などにより解決しなければならなくなつた。

相続人の全員が連帯保証人になった

高齢になってからの借入れは相続対策上十分に考慮しなければならぬ。特に連帯保証人は必ずと言えるほど相続人に対して要求される場合



雪の日の東京ドーム
現在は後楽園・ラクアアとなつてしまつてこの光景を見ることはできない(2002.01.22撮影・細野)

中国三千年の歴史！ 枇杷温圧灸！

鍼灸の技法に即した強力な癖血除去を主体とする「ピウ療法」の種々の技法は、現在、病の主原因である気滞と療血に対応できる即効療法として用いられている。

実に約2800年の昔に、釈迦が病める肉体を『大薬王樹』（枇杷の木）で救うと説き、特に枇杷葉を『無憂扇』と名付け、生ける者全てを救う力ありとして經典に記され、仏教の広がりと共に中国へ渡り、針・灸・薬草等と合体調和し、日本へは仏教伝来(1500年前)と共に伝えられ、今日に伝承された最古の療法だ。奈良朝時代に日本に伝来し、天平2年に光明皇后が創設された『施薬院』には、枇杷療法の原点にあたる枇杷葉を用いた治療の記述が残っている。難病や奇病に苦しむ人々はさらに工夫をこらして、いろいろな活用方法を考えた。「枇杷風呂」「枇杷葉湯」「枇杷焼酎」「金地院療法」等で、特に難病には「枇杷葉温圧療法」がより効果的な方法として用いられている。これは、枇杷の葉の上でお灸をするというごく簡易な方法で、陰陽論で言う「陰」の「枇杷の葉」の中のアミグダリンその他の成分が、「陽」である「モグサ」の遠赤外線熱によって皮下の患部にまで効果が達するという単純だが一般的な方法である。

民間療法として

ピウキューは古くから伝わる民間治療法でもあり、疲労回復、血行をよくする、筋肉のつかれを取る、筋肉のこりをほぐす、神経痛の痛みの緩和、胃腸の動きを活発にするなど、昔から庶民が気軽に利用している。また、治療の特徴は、手軽で簡単、家族が皆で使える(ピウ温圧灸、お灸、温冷療法)、自然療法で副作用がない、温灸範囲が広くツボを外さない、熱くなく、あとを残さず気持ちいい、自宅療法で実に経済的な点などが上げられる。

その効果は、温圧効果、灸効果(モグサ効果)、ピウエキス(アミグダリン)効果、裸体効果、殺菌効果、温冷効果、陰陽効果が技術的な背景となっているのが、今日まで營々と続いている理由なのだろう。

返済のための借入は絶対にしてはいけないこと

が多く、万一の時に大きな問題を残すことになる。頑固さをどうこう言うわけではないが、本当に家族のことを考えるのであれば、はじめのうちに家族や専門家に相談し、慎重に判断するべきである。なぜトコトンまで行つてしまったのか。窮状に陥つたときにこそ勇気ある決断が必要だ。また、むやみに生命保険は解約しない。何故ならば、保険に加入できる年齢ではないからだ。現金化できるものは万一の時の為に残して置くことを考えられなかったか。

無駄な借り入れを増やさない。犠牲者を周囲に及ぼさない。上手な終末は犠牲者の数が最小限に留まることだ。
高齢者の事案はリスクを最小限に押さえ取り組む。事業主は家族を巻き込まず、個人の責任で留まるようにする(安易に家族を連帯保証人にしないこと)。
若い時には、金利の支払いのみで切り抜ける。トコトンまで苦しまず、勇気をもって早目に専門家に相談して借金地獄にピリオドを打つ。

R. F. C Information & Report

第001号 2004.02.15 Vol.2004-01

発行者 株式会社ホロニクス総研

責任者 細野孟士 DZC05310@nifty.com

<http://homepage1.nifty.com/holonics>

〒113-0033 東京都文京区本郷1-35-12 かんだビル7階

Phone(03)5684-0021 Fax.(03)5684-0031